

2020 年 IWC/日本共同 北太平洋鯨類目視調査の実施について

－IWC/POWER 調査航海：調査船の出港－

令和 2 年 7 月 10 日
指定鯨類科学調査法人
一般財団法人 日本鯨類研究所

1. 経緯

本調査は IWC (国際捕鯨委員会) と日本が共同で実施しているもので、IWC では通称 IWC/POWER (International Whaling Commission/Pacific Ocean Whale and Ecosystem Research) と呼ばれています。この調査は、2009 年度まで南極海で行われていた成功例として世界的に高い評価を得ている IWC の調査計画 IWC/SOWER (International Whaling Commission/Southern Ocean Whale and Ecosystem Research: 南大洋鯨類生態系調査、1996/97 年度～2009/2010 年度) での経験と実績を踏まえ、そのノウハウ等を活用して、IWC 科学委員会の主要研究計画に基づき、2010 年度より毎年夏期に実施されています。

昨年までの 10 年間の調査では、過去数十年にわたって広域的な鯨類目視調査が実施されていなかった北緯 40 度以北のアラスカ湾海域において多数のナガスクジラやイワシクジラが発見されたほか、北緯 40 度以南の海域では多数のニタリクジラやマッコウクジラが発見され、客観的な資源評価に貢献する貴重なデータが収集されてきました。また、希少種であるシロナガスクジラやセミクジラの情報も収集されてきました。

今回は、その第 11 回目の調査航海として、北西太平洋を含む、北緯 40 度以北、東経 160 度から 180 度間の中で外国の排他的経済水域を除いた公海を対象に、7 月 11 日から 9 月 24 日にかけて調査を実施します。ただし、本年は新型コロナウイルスの影響により、後期部分の調査については一部暫定的な計画となっています。

2. 調査計画の概要

本調査は、IWC と日本の共同調査であり、IWC 科学委員会がその計画の策定を行い、同委員会内に設置された POWER 運営グループ (コンビーナー: 松岡耕二・日本鯨類研究所資源管理部門長) が計画の立案と結果の分析を主導します。また、当研究所が水産庁から委託を受け、調査航海を実施します。本年の調査計画の概要は、以下のとおりです。

2.1 主要調査目的:

- (1) イワシクジラ、ザトウクジラ及びコククジラの詳細資源評価に関する情報収集
- (2) 希少種である西太平洋のセミクジラ及びシロナガスクジラに関する情報収集
- (3) 資源情報が不足しているその他の鯨類資源について資源量と系群構造に関する情報収集
- (4) 本調査の中長期計画を策定するために必要な情報収集

2.2 調査期間:

2020年7月11日－9月24日(76日間)

2.3. 調査海域:

北緯40度以北、東経160度以東、180度以西の外国の排他的経済水域を除いた海域(図1)。
調査の中盤に釧路港に寄港し、国際調査員の乗下船や機材込み、燃料補給等を行います。

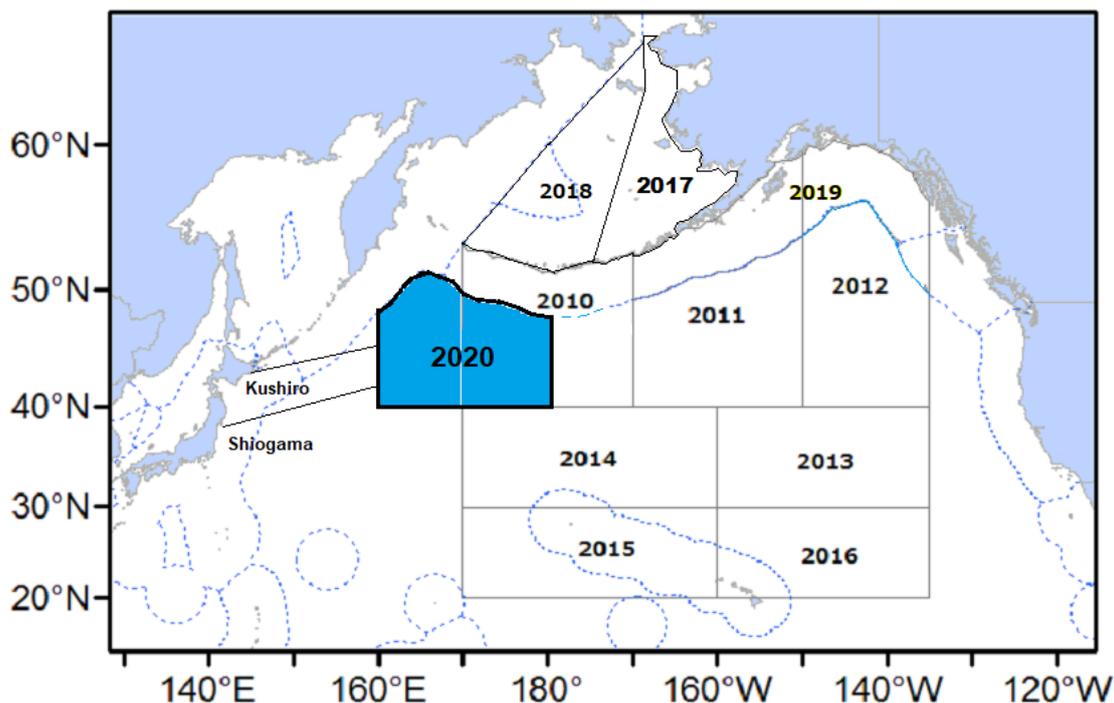


図1. 2020年の調査海域(青色)ならびに往復航海のコース(黒線)。

2.4. 国際調査員:

IWC 科学委員会が指名した下記の調査員によって調査が行われます。

前期調査:

松岡耕二; 日本・調査団長・(一財)日本鯨類研究所

吉村 勇; 日本・IWC 選任国際調査員

勝俣太貴; 日本・(一財)日本鯨類研究所

後期調査(予定):

村瀬弘人; 日本・調査団長・国立大学法人 東京海洋大学

James Gilpatrick; 米国・NOAA/SWFSC

Jessica Crance; 米国・NOAA/AFSC

勝俣太貴; 日本・(一財)日本鯨類研究所

2.5. 調査船:

第二勇新丸(747トン、(株)共同船舶所属、阿部敦男船長以下17名)

2.6. 実施機関：（一財）日本鯨類研究所

写真：過去の調査の様子



イ)



ロ)



ハ)



ニ)



ホ)



ヘ)

- イ) ナガスクジラの噴気(アラスカ湾。右顎の白色が特徴)
- ロ) ザトウクジラの浮上(アラスカ湾。長い胸鰭が特徴)
- ハ) ザトウクジラからバイオプシー調査にて採取した皮膚標本
- ニ) ツチクジラの浮上(アラスカ湾。吻と頭部が見える)
- ホ) 船上での退船操練風景
- ヘ) ダッチハーバー入港中の第二勇新丸

以上